



○転入職員のご紹介

今年度、新たに4名の職員が臼井中学校に加わりました。どうぞよろしくお願いいたします。

教諭	小林 麻子 (こばやし あさこ)	(数学)	新潟市立新津第二中学校より
教諭	前田 千帆 (まえだ ちほ)	(理科)	新潟市立西川中学校より
養護教諭	水上 有加 (みずかみ ゆか)	新採用	
用務員	高橋 衛 (たかはし まもる)		新潟市立味方小学校より

○1学期始業式 (校長講話)

10年に1度の大雪に見舞われた今年の冬でしたが、いつの間にか雪もすっかり消え、校庭の桜も咲き始めました。まもなく満開の桜に包まれる、気持ちのいい季節を迎えました。

2年生、3年生の皆さん、進級おめでとう。それぞれ1学年ずつ進級した、今の気持ちはどうでしょうか。新たな気持ちでワクワクとしていることと思います。3年生は臼井中学校のリーダー、「顔」として。2年生は中学校での様々な活動での、実質の動力、エンジンとして、今日からはまるこの1年間を、満足感のあふれるものにしていきましょう。

さて、皆さんはゲーム機のプレイステーションを作っているメーカーを知っていますか？ソニーですね。ゲームやテレビやモニターなどの映像、ビデオ、ロボットなど、世界的にも有名なメーカーですが、今から17年ほど前、10年連続の営業赤字で累積赤字額は7900億円に膨らみ、経営危機に直面していました。そのソニーをどん底から回復させ成長させた当時のCEO平井一夫さんのインタビュー記事をこの春休み中に観ました。その平井さんの取組は、2018年に赤字だったエレクトロニクス部門は黒字化、同時に映画、音楽、ゲームでも高い利益を出し史上最高益を記録し、ソニーを復活させたのです。

その平井さんは記事で二つのことを語っていました。「今の若い人たちは、新しい技術、アイデアを、いろいろ持っているんです。大事なのはそういったアイデアを試してみる。せっかくいいアイデアがあっても、やったことがないからとか、失敗したらどうすると言って、トライしないと、結局何も新しいものは生まれません。」そして、「今、どういう方向に行っているのか、よく分からないということはよくある。でも、だからこそ、そもそも自分にとっては何が大事なのか、自分の人生でいちばん大事なのは何なのだろうかということを考えて、それに向かって行動する。優先順位がどんどん変わっても構わないが、大事なのはそれを考えること」と。

私はふと思ひ浮かんだのが、「やってみよう」因子、「ありのままに」因子です。3学期の終業式でお話したウェルビーイングの4つの因子です。あと二つは「ありがとう」「なんとかなるさ」でした。平井さんは去年ソニーCEOを辞任し、今は一般社団法人を立ち上げて子供たちの体験活動を支援する活動をしています。インタビューに答える表情が、充実感にあふれ生き生きとされている様子でした。まさしく「よりよい人生を送っている」、ウェルビーイングに満ちあふれているのだと感じました。

今日から令和7年度がスタートします。「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなるさ」「ありのままに」の4つをキーワードに、誰もが自分らしさを発揮できる、そんな学級、学年、学校をつくっていきましょう。そのために、困った人が身近にいたら、みんなで手を差し伸べてやる、そんな雰囲気を大切にしていきましょう。私たち先生方も、授業や学級、学年での活動などで、困っている生徒には全力で手を差し伸べます。そして、この臼井中学校で過ごす人に、心も身体も満たされた状態、心の豊かさがより大きく広がっていくことを目指していきます。この1年間、臼井中学校にかかわる皆さんと一緒に、より良い臼井中学校を築いていけるよう、よろしくお願いいたします。